

# 第 39 回通常総会

開催日 : 平成 26 年 5 月 23 日 (金)

会 場 : 日本青年館国際ホール

一般社団法人 協力隊を育てる会



# 第 39 回 通 常 総 会

・・・・・・・・・・・・・・・・資 料 目 次・・・・・・・・・・・・・・・・

## 第 39 回通常総会 報告書

平成 25 年度事業報告 .....	5
平成 26 年度事業計画 .....	31
平成 26 年度収支予算 .....	44

## 第 39 回通常総会 議案書

### 第 1 号議案

平成 25 年度決算承認の件 .....	46
公益目的支出計画実施報告書.....	52
監事監査報告書.....	53

### 第 2 号議案

役員に関する件.....	54
--------------	----



一般社団法人 協力隊を育てる会

## 第 39 回通常総会

# 報告書

平成 25 年度事業報告

平成 26 年度事業計画

平成 26 年度収支予算

日 時 : 平成 26 年 5 月 23 日 (金)

会 場 : 日本青年館国際ホール

一般社団法人協力隊を育てる会

平成 25 年度役員、顧問・参与

会長・代表理事	足立 房夫	公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金顧問
副会長・常任理事	山本 信也	一般財団法人日本青年館常務理事
副会長・常任理事	水野 秀一	公益社団法人日本青年会議所事務局長
常任理事	松岡 和久	一般財団法人日本国際協力センター名誉顧問
理 事	大貫 康雄	公益社団法人自由報道協会代表理事
理 事	奥永 眞智子	一般社団法人協力隊を育てる会事務局長
理 事	尾関 史生	株式会社セキュリティ新聞社代表取締役
理 事	重 政子	認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」 推進会議代表理事
理 事	島田 茂	公益財団法人日本 YMCA 同盟総主事・常務理事
理 事	土井 章	国際航業株式会社執行役員・海外事業部長
理 事	山根木 晴久	日本労働組合総連合会組織局長
監 事	白山 肇	大東文化大学環境創造学部教授、富山県青年海外協力隊を育てる会会長
監 事	中村 義人	公認会計士、東洋大学経営学部非常勤講師

顧 問	三浦 朱門	日本藝術院長、作家
顧 問	宮崎 幸雄	元公益財団法人ロータリー米山記念奨学会専務理事
顧 問	黒河内 康	元タンザニア、ナイジェリア、スイス大使
顧 問	青木 盛久	元ケニア、ペルー大使
参 与	大久保 純夫	元一般社団法人協力隊を育てる会事務局長
参 与	小川 一成	茨城県議会議員、茨城県青年海外協力隊を育てる会副会長
参 与	杉下 恒夫	一般財団法人国際開発高等教育機構理事長
参 与	高橋 成雄	NPO 法人地球緑化センター顧問
参 与	西川 政善	徳島文理大学総合政策研究科教授、元小松島市長
参 与	吹浦 忠正	NPO 法人ユーラシア 21 研究所理事長
参 与	森高 康行	愛媛県議会議員、愛媛県青年海外協力隊を育てる会理事
参 与	横尾 賢一郎	一般社団法人日本経済団体連合会国際協力本部長

# 平成 25 年度事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

昨年 4 月、当会は一般社団法人として新たなスタートを切りました。これを契機に、より自由な発想と「内から外へ」の姿勢を持って新規事業に取り組んで参りました。

また、財政基盤の立て直しが迫られる中、自主財源の確保を目指して、これまで関係がなかった多くの団体、企業の皆さまと接点を持ち、育てる会の活動を積極的にアピールして参りました。

## ①財政基盤の確立

新規事業として、昨年 10 月に厚生労働省の許可を得て「有料職業紹介」「一般労働者派遣」事業を開始いたしました。また、株式会社全国儀式サービスと提携し「サポート会員」制度を導入、福利厚生制度をご利用いただきながら当会の事業を応援していただくという取り組み（サポート事業）を開始いたしました。

また、各省庁の公示案件については、JICA の進路調査業務など当会の専門性を活かせる業務に積極的に応じたほか、「JICA ボランティア BOP ビジネス及び特産品開発への貢献事例集」の作成業務をはじめ、独立行政法人環境再生保全機構の実施する「海外派遣研修事業」を新規に落札いたしました。

## ②他団体との積極的な交流

これまでも他団体との積極的な交流を続けてきましたが、今年度はライオンズクラブと共同で震災復興支援活動やインドネシア高校生の日本招聘、開発教育全国集会などを行い、お互いの事業に参加することでより関係を強固なものにいたしました。

また、傳通院や西の市などの地域祭礼にも積極的に参加し、青年海外協力隊をはじめとする JICA ボランティア事業と育てる会の活動について、広く訴えかけて参りました。

YMCA、修養団などの青少年団体とも積極的な情報交換を行ったほか、海外に展開する企業を対象とした情報紙に協力隊員の連載記事を働きかけるなど、将来の協力隊事業を担う若者の育成とそれを支える民間の支援者の開拓にも努めて参りました。

## ③全国の組織化

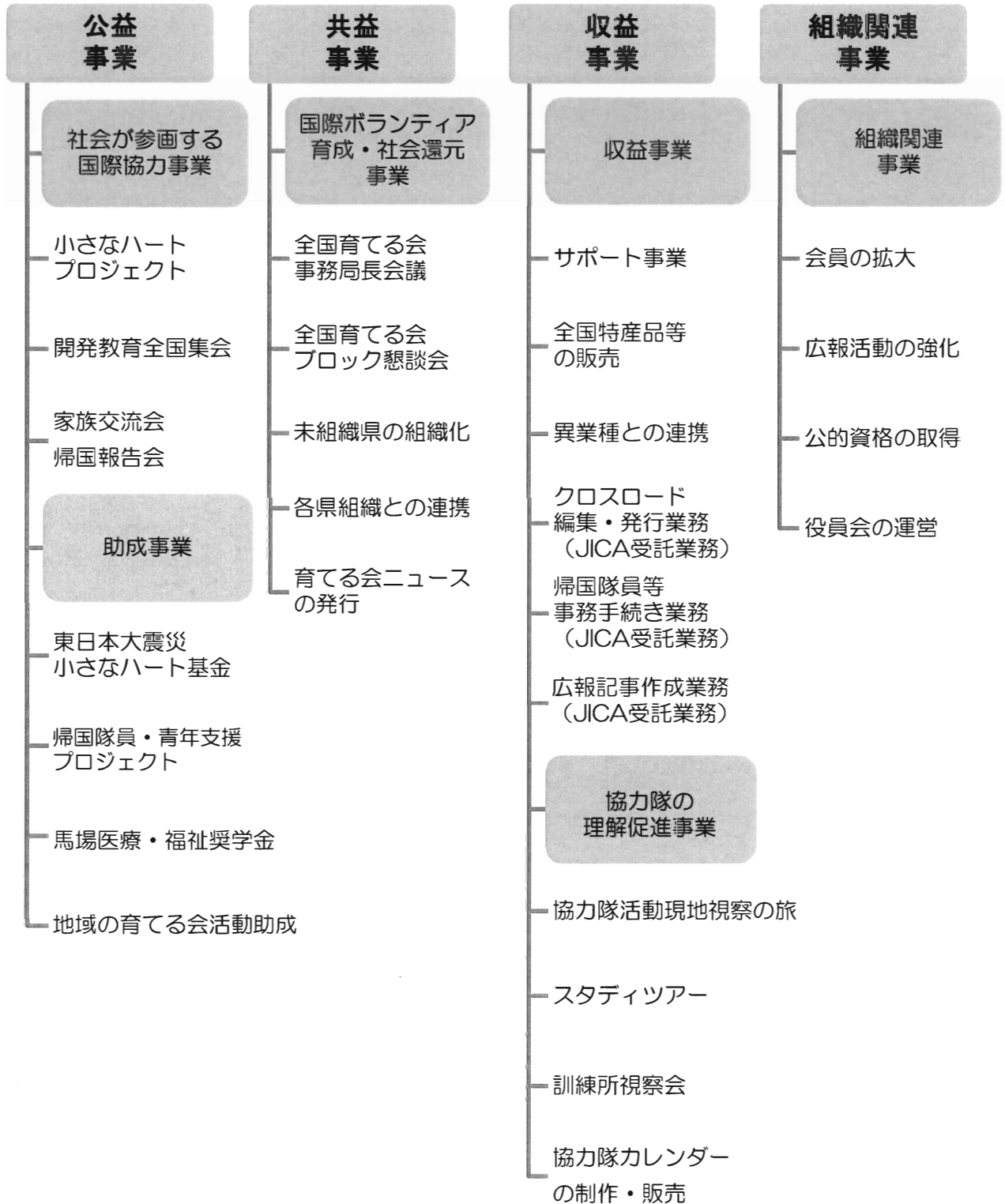
4 月に和歌山県で組織が立ち上がり、残すは京都、奈良、静岡、神奈川となりました。京都、奈良での組織化の働きかけも積極的に行い、次年度の設立へと向けて着実に準備を進めています。

既成の概念や慣習にとらわれることなく、一般社団法人として自由な発想をもって今後も積極的な活動を実施して参りますので、皆さまのさらなるご理解と引き続きのご支援をお願い申し上げます。

【記載の所属・役職名などは実施当時の表記としております】

## 協力隊を育てる会の使命

青年海外協力隊をはじめとする国際ボランティア（以下「協力隊等」という。）事業に市民の立場から参加しやすい社会環境を創り、次世代を担う人材の創出及び育成を図るとともに、協力隊等が得た経験を共有することで多様な価値観を尊重する平和で豊かな社会を築き、国際社会と地域社会の発展に寄与する。





## 公益事業

### 1. 社会が参画する国際協力事業

#### 1) 小さなハートプロジェクト

協力隊員が本来の業務以外に企画するプロジェクトに対して全国より支援金を募り、支援した。プロジェクト支援によって、途上国の人々の生活向上に寄与するだけでなく、青年海外協力隊を通して支援者と途上国の人々との繋がりを強め、国際協力に対する気運を高めた。

募集期間：通年

支援金額：1 案件につき上限 300,000 円

申請件数：8 件

支援件数：6 件（他 2 件は平成 26 年度に実施）

支援総額：1,553,403 円

選考：随時

選考委員：委員長▶松岡和久（一般社団法人協力隊を育てる会常任理事）

委員▶島田 茂（同理事）、杉下恒夫（同参与）

#### 【小さなハートプロジェクト支援一覧】

	氏名（隊次） 職種 派遣国	出身 県名	支援 決定	プロジェクト名	支援額 （円）	支援者名
1	藤田沙織（23-4） 青少年活動 マラウイ	愛媛	6/25	HIV 孤児たちの 未来へのステップ	300,000	愛媛県青年海外協 力隊を育てる会
2	榎本翼（23-2） 村落開発普及員 カメルーン	埼玉	6/25	安全な水の輪を広げよう ～村の水道拡張 プロジェクト～	167,000	埼玉国際青年を育 てる会 ほか
3	若穂井潤（24-2） 村落開発普及員 セネガル	神奈川	11/13	電気のない街 マレムニャーニの 子どもたちに”光”を	294,960	全国電力関連産業 労働組合総連合 ほか
4	成田祐子（24-1） 看護師 ウガンダ	北海道	12/1	小学校の生徒に 手洗い施設と 綺麗なトイレを作ろう	300,000	全国電力関連産業 労働組合総連合 ほか
5	竹内希（24-1） 理数科教師 ザンビア	長野	1/30	キャワマ中学校における 貯水タンク 設置プロジェクト	278,840	足利市ボランティア 協会、足利市社会 福祉協議会
6	熊明信（25-1） 理科教育 ルワンダ	長崎	1/30	ウォータータンクの設置 ～水のない 学校のために～	212,603	石川県立金沢二水 高校
支援総額					1,553,403 円	

#### 2) 開発教育全国集会

全国育てる会のネットワークを活かし、協力隊事業を通じた国際理解と協力隊経験の社会還元を広く市民の方に理解していただく場として開催した。

(1) 第23回開発教育全国集会 in 青森

開催日 : 8月10日(土) 13:00~17:00

テーマ : 「青森から地球を知ろう～日本の国際協力と地球温暖化への取り組み～」

主催 : 地球色の日焼け・あおもり応援団、一般社団法人協力隊を育てる会

後援 : 外務省、公益財団法人青森県国際交流協会、青森県青年海外協力協会、JICA 東北

場所 : 青森水産ビル7階大会議室

参加者 : 30名

概要 : 県出身の帰国隊員による「小さなハートプロジェクト」活動を通じて、国際協力が市民にとって「いつでも・どこでも・誰でも」参画できるものであることを周知した。また、ツバルの環境問題に取り組む帰国隊員や専門家の活動を通じて、学術的な視点から日本の国際協力を市民に周知した。

【プログラム】

第1部 「青年海外協力隊と企業の連携について～民間連携ボランティア制度とは」

講師 : 松舘文子(元ツバル国に対する生態工学的維持プロジェクト業務調整員)

第2部 「協力隊の活動を知ろう～誰だってできる！青森とアフリカを結ぶ小さな絆」

講師 : 伊藤真弓 OG (23-1/行政サービス/ガーナ)

第3部 「ツバルのステージ」

① “ツバルを知ろう～ツバルってどんなところ？”

講師 : 松舘文子(元ツバル国に対する生態工学的維持プロジェクト業務調整員)

② “星の砂ってなに？～本邦初公開！ここでしか見られないツバルの土地、生きた姿”

講師 : 井出洋一(元ツバル国に対する生態工学的維持プロジェクト専門家)

③ “ツバルの人たちに想いが届きますように～絵本と唄～”

朗読 : 熊谷清子(元小学校教諭)

(2) 第24回開発教育全国集会 in 東京

当初10月25日(金)に開催を予定していたが、台風27号の接近に伴い下記のとおり延期して実施した。

開催日 : 平成26年1月24日(金) 13:00~16:30

テーマ : 「ボランティア経験から学ぶ自然災害への備え

～青年海外協力隊とライオンズクラブの取り組み」

主催 : 一般社団法人協力隊を育てる会

後援 : 外務省、JICA、東京浅草ライオンズクラブ、東京日本橋ライオンズクラブ、東京レスキューライオンズクラブ、防災士研修センター

場所 : TKP 品川カンファレンスセンター

参加者 : 95名

概要 : 東日本大震災復興支援に参加した帰国隊員とライオンズクラブメンバーの諸活動を通じて、自然災害時におけるボランティア経験とそのネットワーク活用の重要性について、市民に周知するとともに今後起こり得る「災害時の備え」として意識向上に繋げた。

### 【基調講演】

- テーマ : 「今迫りくる大水害の危機」  
講師 : 土屋信行 (公益財団法人えどがわ環境財団理事長)

### 【シンポジウム】

- テーマ : 「協力隊経験を如何に活かすべきか」  
講師 : 妹尾祐治 (青年海外協力隊愛知県 OB 会復興支援委員会委員長)  
知脇 希 (JOCV リハビリテーションネットワーク事務局理事)  
井桁風雄 (東京浅草ライオンズクラブ会長)  
屋代誠一 (東京日本橋ライオンズクラブ幹事)  
土屋信行 (公益財団法人えどがわ環境財団理事長)  
進行 : 足立房夫 (一般社団法人協力隊を育てる会会長)

### 3) 家族交流会・帰国報告会

協力隊事業の理解普及を目的に、隊員家族をはじめ将来協力隊参加を志す学生、また市民団体などを対象に帰国隊員の活動報告を機会あるごとに企画、開催した。

#### (1) 協力隊を育てる会「家族交流会」の開催

##### ①第1回

- 主催 : 一般社団法人協力隊を育てる会  
共催 : JICA 地球ひろば  
開催日 : 8月3日(日) 13:00~16:00  
場所 : JICA 市ヶ谷  
テーマ : 「協力隊のいろいろな?にお答えします」  
参加者 : 26家族40名及び講師、関係者計50名  
概要 : 帰国隊員活動報告~大庭 隆 (23-1/村落開発普及員/ソロモン)  
「視察の旅」参加報告~佐藤千代子・卓さんご夫妻 (南アフリカ)  
山本政子・秀昭さんご夫妻 (ガーナ)  
帰国後の話~中川正機 (元進路相談カウンセラー)  
「視察の旅」の事業説明と懇親会

##### ②第2回

- 主催 : 一般社団法人協力隊を育てる会  
共催 : JICA 地球ひろば  
開催日 : 平成26年2月22日(日) 13:00~16:00  
場所 : JICA 市ヶ谷  
テーマ : JICA ボランティアを知ろう  
参加者 : 12家族38名及び講師、関係者計45名  
概要 : 帰国隊員活動報告~岸 卓巨 (23-2/青少年活動/ケニア)  
帰国後の話~伊藤 豊 (横浜市役所勤務、7-1/体育/ジンバブエ)  
「視察の旅」の事業説明と懇親会

## (2) 帰国報告会の開催

### ①第1回

主 催 : Whats ライオンズ  
開催日 : 4月26日(金) 18:30~21:00  
場 所 : 東京都トラック協会ビル  
テーマ : 協力隊活動~ベトナムにおける日本語教育~  
講 師 : 吉田恭子(20-4/日本語教育/ベトナム)  
参加者 : 都内ライオンズクラブメンバー有志20名

### ②第2回

主 催 : ライオンズクラブ・コミッション21  
開催日 : 5月20日(月) 18:00~20:00  
場 所 : 四ツ谷「多満川」  
テーマ : 協力隊活動~スリランカにおける観光振興~  
講 師 : 青木杏里(20-4/観光業/スリランカ)  
参加者 : 都内ライオンズクラブメンバー有志20名

### ③第3回

主 催 : ライオンズクラブ・コミッション21  
開催日 : 6月17日(月) 18:00~20:00  
場 所 : 四ツ谷「多満川」  
テーマ : 協力隊活動~モンゴルにおける幼児教育~  
講 師 : 中鉢友子(20-1/幼児教育/モンゴル)  
参加者 : 都内ライオンズクラブ有志メンバー20名

### ④第4回

主 催 : Whats ライオンズクラブ  
開催日 : 11月22日(金) 18:30~21:00  
場 所 : 東京都トラック協会ビル  
テーマ : ツバルの海没を防ぐために  
講 師 : 松舘文子(61-1/人形制作/タイ)  
参加者 : 都内ライオンズクラブ有志メンバー20名

## 4) グローバルフェスタ JAPAN2013 でのブース出展

「国際協力の日」にあわせて開催される、国際協力への理解と参加を呼び掛けるイベントにブース出展し、育てる会活動の広報を行った。

開催日 : 10月5日(土)~6日(日) 10:00~17:00  
場 所 : 日比谷公園  
概 要 : 当会の事業紹介、カレンダー販売(56冊)、OBOG ショップ物販(31,150円)

## 5) インドネシアとの交流事業

平成25年2月に当会が実施したインドネシアスタディツアーをきっかけに、協力隊員の教え子であるマタラム国立第一高等学校(ロンボク島)の高校生を日本に招聘。帰国隊員の勤務する国立

高校を拠点に、日本語向上を目的とした日本学生との文化交流を図ったほか、ライオンズクラブやソロプチミストの支援をもとに、各種文化体験を行った。

主催：一般社団法人協力隊を育てる会

支援団体：東京浅草ライオンズクラブ、東京センチュリーライオンズクラブ、川越ライオンズクラブ、そのほか都内ライオンズクラブ、ソロプチミスト東京-山の手など

実施期間：平成26年1月7日（火）～1月16日（木）

招聘人数：11名（引率教員1名含む）

受入先：筑波大学附属坂戸高校

受入担当：建元喜寿（20-1／環境教育／インドネシア）

概要：坂戸高校における日本学生との合同授業、異文化交流イベント、首都圏観光

その他：インターネットラジオ番組「大貫康雄の伝える世界」に建元OBが出演、高校生の受入を通じたインドネシアとの交流について紹介（2月4日放送）

## 2. 助成事業

---

### 1) 東日本大震災「小さなハート基金」

#### (1) 東日本大震災復興支援記録文集の作成・販売

協力隊経験の社会還元事例としてだけでなく、今後起こり得る自然災害時への提言として、全国育てる会のネットワーク等を活かして文集を作成、配布・販売した。

印刷数：3,000部

販売数：2,850部（配布含む）

販売額：928,920円

#### (2) 「小さなハート基金」による活動支援

東日本大震災の復興支援活動に関わる帰国隊員らの活動に対し、全国から寄付を集めて支援した。

募集期間：通年

支援金額：1案件につき上限300,000円

申請件数：4件

支援件数：3件

支援総額：888,234円

選考：随時

選考委員：委員長▶松岡和久（一般社団法人協力隊を育てる会常任理事）

委員▶島田 茂（同理事）、小川一成（同参与）、杉下恒夫（同参与）



【小さなハート基金支援一覧】

	氏名（隊次） 職種 派遣国	プロジェクト名 （実施県）	実施団体等	支援額（円）
1	久保田靖朗（21-3） 青少年活動 モザンビーク	セヶ浜ビーチフェスティバル開催 （宮城県）	セブンヘブン 実行委員会	300,000
2	塚田尚三（18-1） 青少年活動 ベトナム	ひとかけらアートプロジェクト （福島県）	金属造形家（個人）	288,234
3	細川光宜（8-2） 木工 PNG	気仙沼にある漁業協同組合への 養殖いかだ再生（宮城県）	青年海外協力隊 広島県 OB 会	300,000
支援総額				888,234 円

※PNG=パプアニューギニア

2) 帰国隊員・青年支援プロジェクト

公益財団法人三菱 UFJ 国際財団の助成のもと、帰国隊員の国際協力活動などを支援した。

募集期間：7月1日（月）～8月31日（土）

支援金額：1 案件につき上限 500,000 円

申請件数：34 件（協力活動 5 件、調査研究 29 件）

支援件数：9 件（協力活動 2 件、調査研究 7 件）

支援総額：2,700,000 円

選考会：10月10日（木）於 JICA 地球ひろば

選考委員：委員長▶松岡和久（一般社団法人協力隊を育てる会常任理事）

委員▶小沢良明（公益財団法人三菱 UFJ 国際財団専務理事）

松島正明（JICA 青年海外協力隊事務局審議役）

島田 茂（一般社団法人協力隊を育てる会理事）、小川一成（同参与）

【帰国隊員・青年支援プロジェクト支援一覧】

	氏名（隊次） 職種 派遣国	プロジェクト名	対象活動	支援額（円）
1	出合祐太（19-4） 野球 ブルキナファソ	ブルキナファソ野球プロリーグ プロジェクト	協力活動	390,000
2	山田麻樹（22-2） 村落開発普及員 フィリピン	モリンガを使った栄養改善と 環境改善プロジェクト	協力活動	390,000
3	長谷川真紀（22-4） 造園 フィリピン	タンザニア-ザンバジルにおける 都市部の景観、生活環境改善プロジェクト	調査研究	390,000
4	松野瑠衣（17-3） 看護師 ブルキナファソ	セネガル共和国農村部の女性が 出産場所を選択するプロセスの検討	調査研究	390,000

	氏名(隊次) 職種 派遣国	プロジェクト名	対象活動	支援額(円)
5	小林由香里(21-1) 村落開発普及員 パナマ	パナマ共和国-ノベグレ先住民族 女性組合員のエンパワーメント ～民芸品による収入向上プロジェクト～	調査研究	390,000
6	西村一也(22-2) 環境教育 ミクロネシア	スーダン共和国カッサラ州における 外来植物メスキートの分布に伴う 家畜の行動及び降水量に関する研究	調査研究	120,000
7	米田勇太(21-3) 理数科教師 ラオス	ラオスにおける 若者の高等教育への意識調査 政策との齟齬	調査研究	200,000
8	紅粉真衣(22-4) 看護師 ラオス	タイ農村部における母子健康手帳の 利用状況の評価および母親と子どもの 健康向上に信念・行動を与える効果	調査研究	150,000
9	凧 幸世(8-3) 臨床検査技師 モルディブ	ケニア辺境ビタ県における 寄生虫感染のリスク要因と 慢性栄養失調の原因解明	調査研究	280,000
支援総額				2,700,000円

### 3) 馬場医療・福祉奨学金

医療・福祉分野への就職を希望する帰国隊員を対象とし、返済義務を付し支援した。

募集期間：7月1日(月)～8月31日(土)

支援金額：1名につき上限500,000円(原則2名まで)

申請件数：1件

支援件数：1件

支援総額：500,000円

選考会：帰国隊員・青年支援プロジェクトと併せて選考

選考委員：委員長▶松岡和久(一般社団法人協力隊を育てる会常任理事)

委員▶島田 茂(同理事)、小川一成(同参与)、杉下恒夫(同参与)

#### 【馬場医療・福祉奨学金給付者一覧】

	氏名(隊次) 職種 派遣国	プロジェクト名	支援額(円)
1	上岡 廉(21-2) 養護 ヨルダン	リーズ大学(イギリス) 社会学・社会政策学部 障害と開発コース	500,000
支援総額			500,000円

### 4) 「小さなハート」チャリティゴルフの共催

協力隊事業と当会活動の理解普及を図るとともに、チャリティによる収益を「小さなハート基金」などに活用することを目的に、実行委員会によるチャリティゴルフ大会を共同開催した。

主 催 : ぎふ美濃ゴルフ倶楽部  
全日本自動車産業労働組合総連合会愛知地方協議会  
一般社団法人協力隊を育てる会  
開催日 : 11月19日(火) 08:00~15:00  
場 所 : ぎふ美濃ゴルフ倶楽部  
参加者 : 95名  
寄付金 : 521,000円(うち170,000円は野球用品のオークションによる)

5) 地域の育てる会活動助成

各地域のボランティアによる育てる会活動に対し、活動助成金を給付した。

対象事業 : 以下の3事業

- ①協力隊に参加し易く、その経験を地域に活かす社会環境整備活動
- ②協力隊事業の理解促進のための広報啓発活動
- ③「協力隊の応援団」を地域で増やす支援者拡充活動

給付金額 : 上限80,000円

給付組織 : 39組織

給付総額 : 3,033,000円



## 共益事業

### 3. 国際ボランティア育成・社会還元事業

---

#### 1) 全国育てる会事務局長会議

当初 10 月 26 日（土）に開催を予定していたが、台風 27 号の接近に伴い下記のとおり延期した。

開催日 : 平成 26 年 1 月 25 日（土）09:30~12:30

場 所 : TKP 品川カンファレンスセンター ANNEX

参加組織 : 38 組織

議 題 : 育てる会の事業展開について

#### 2) 全国育てる会ブロック懇談会

各県組織の活性化と連帯強化を目的として、今年度は「開発教育全国集会 in 青森」と併せて北海道・東北ブロック懇談会を開催した。

幹事組織 : 地球色の日焼け・あおもり応援団

開催日 : 8 月 11 日（日）09:30~12:30

場 所 : 青森国際ホテル

参加組織 : 北海道、青森県、秋田県、山形県、宮城県、福島県、二本松市の各県組織

JICA 東北支部、一般社団法人協力隊を育てる会

議 題 : JICA ボランティア事業の現況

各県組織・社団からの現況報告

意見交換と今後の取り組みについて

#### 3) 未組織県の組織化

協力隊の応援団として全国から支援の声を発することができるよう、未組織県において組織化を進めた。

##### (1) 新組織の設立

###### ①和歌山県

概 要 : 設立総会・設立記念レセプション

開催日 : 4 月 9 日（火）11:00~14:00

場 所 : ダイワロイネットホテル和歌山

組織名 : わかやま JICA ボランティア応援団

概 要 : 全国で 44 番目の組織として設立

会 長 : 檜畑直尚（公益財団法人和歌山県国際交流協会理事長）

事務局長 : 筒井 満（公益財団法人和歌山県国際交流協会常務理事）

##### (2) 未組織県（神奈川、静岡、京都、奈良）への働きかけ

###### ①京都府

概 要 : 設立支援者との会合

開催日 : 9月13日(金) 13:00~15:30  
 場 所 : ホテル京阪京都  
 参加者 : 平井誠一(株式会社京つけもの西利代表取締役専務)  
 山本茂博(株式会社美濃吉顧問)  
 足立会長、伊藤課長

②奈良県

概 要 : 設立準備会との会合  
 開催日 : 9月13日(金) 18:30~20:30  
 場 所 : ホテル日航奈良  
 参加者 : 乾昌弘(株式会社明新社代表取締役社長)  
 安増田真由美(同社総務課長)  
 福田純一(奈良県外国人支援センター総務室長、留学生交流室長)  
 島田仁(NPO 法人奈良県国際協力サポーター理事長)  
 山上雅文(同副理事長、株式会社ジェムコーポレーション代表取締役)  
 小尾二郎(奈良県青年海外協力協会会長)  
 足立会長、伊藤課長

③神奈川県

概 要 : 設立支援の依頼  
 開催日 : 10月22日(火) 15:00~16:00  
 場 所 : 横浜岡田屋本社  
 参加者 : 岡田伸浩(株式会社横浜岡田屋代表取締役社長)  
 足立会長、水野副会長、奥永事務局長、伊藤職員

4) 各県組織との連携

全国組織としての活動を更に活発化させるとともに、情報と問題意識の共有を目的に総会などに出席した。

(1) 各県総会・家族連絡会などへの出席

	組織名	開催名	開催日	出席者
1	宮城県青年海外協力隊を支援する会	総会・講演会	5/11(土)	松岡常任理事
2	埼玉国際青年を育てる会	総会	5/25(土)	奥永事務局長
3	愛知県青年海外協力隊を支援する会	総会	5/25(土)	伊藤課長
4	茨城県青年海外協力隊を育てる会	総会	6/2(日)	大石課長
5	群馬県青年海外協力隊を育てる会	総会	6/7(金)	足立会長
6	社団法人青年海外協力隊プラザ・大阪	総会	6/14(金)	足立会長
7	広島県青年海外協力隊を育てる会	総会	6/17(月)	足立会長

	組織名	開催名	開催日	出席者
8	JICA 海外ボランティアひょうご応援団	総会	6/22 (土)	松岡常任理事
9	千葉県海外協力隊を育てる会	総会	6/29 (土)	足立会長、大石課長
10	千葉県海外協力隊を育てる会	家族連絡会	9/1 (日)	奥永事務局長
11	JICA 地球ひろば (東京)	家族連絡会	11/9 (土)	大石次長
12	千葉県海外協力隊を育てる会	家族連絡会	12/7 (土)	大石次長、坂部本部長
13	JICA 中部 (静岡県)	家族連絡会	2/22 (土)	奥永事務局長

(2) 各県組織イベント・記念式典などへの出席

①協力隊を支援するやまがた地球家族の会

「企業のグローバル展開と JICA ボランティアの活用を考えるフォーラム」

開催日 : 11月6日(水) 13:30~16:30

場 所 : 山形市保健センター

出席者 : 奥永事務局長

②青年海外協力隊とちぎ応援団「設立10周年記念式典」

開催日 : 11月24日(日) 16:00~19:00

場 所 : 栃木県青年会館コンセーレ

出席者 : 松岡常任理事

③JICA 二本松訓練所「訓練修了者一万人突破記念式典・朝河桜記念碑除幕式」

開催日 : 11月26日(火)

場 所 : JICA 二本松訓練所

出席者 : 松岡常任理事

④徳島県協力隊を育てる会「設立20周年記念式典」

開催日 : 2月7日(金) 18:00~20:00

場 所 : 阿波観光ホテル

出席者 : 足立会長

5) 各県組織の主な変更など

(1) 会長の交代

	組織名	前任	新任・役職名等
1	青年海外協力隊とちぎ応援団	上西朗夫	観堂義憲 (株) 下野新聞社代表取締役社長
2	福井県青年海外協力隊等を支援する会	屋敷 勇	菅原 勉 福正寺住職/エルサルバドル OB
3	JICA 海外ボランティアひょうご応援団	岩槻邦男	齋藤富雄 (公財) 兵庫県国際交流協会理事長
4	社団法人青年海外協力隊プラザ・大阪	大槻隆一	織田峰彦 元讀賣新聞大阪本社論説委員長

(2) 事務局長の交代

	組織名	前任	新任・役職名等
1	北海道青年海外協力隊を育てる会	荻野京子	森 道夫 (副会長兼務)
2	福島県青年海外協力隊を支援する会	荒 証文	齊藤誠一 (ザンビア OB)
3	青年海外協力隊とちぎ応援団	渡辺 勲	猪瀬 博 (フィリピン OB)
4	埼玉県国際青年を育てる会	大原 薫	井上泰一 (税理士)
5	福井県青年海外協力隊等を支援する会	寺坂智昭	福島勘治 (フィリピン OB)
6	広島県青年海外協力隊を育てる会	越智正紀	証本伸悦 (パプアニューギニア OB)
7	徳島県協力隊を育てる会	阿部 仁	佐々木治之 (ケニア OB)
8	福岡県青年海外協力隊を支援する会	梅野忠光	三苫英太郎 (ザンビア OB)

6) 「協力隊を育てる会ニュース」の発行

全国の支援者に育てる会の活動や役割を伝えるとともに、育てる会を取り巻く関係組織や支援者などの相互の連携を図るため、毎月発行した。また、ホームページとの相乗効果を図り、それぞれの利点を活かした広報を心掛けた。

発行部数：約 10,000 部/毎月

仕 様：モノクロ/タブロイド版/4 ページ

別 冊：「視察の旅」参加者を呼びかけるため「視察の旅別冊号」を5月15日に発行

月号	国際協力時評など	主な記事
4月	檜畑直尚（わかやま応援団会長）	和歌山県に44番目の組織設立
5月	武藤一郎（愛知県支援する会副会長）	小さなハートプロジェクト実施報告
6月	第38回通常総会報告	帰国隊員が生産する特産品紹介
7月	時田勉（トキタ種苗株式会社社長）	ジャナグル日本ツアー
8月	菅原勉（福井県支援する会会長）	視察の旅特集
9月	小沢良朗（三菱UFJ国際財団専務理事）	開発教育全国集会（青森）、震災・防災特集
10月	—	就職支援事業
11月	小川登志夫（JOCV事務局長）	帰国隊員が生産する特産品紹介
12月	朝日恵子（福井県支援する会副会長）	小さなハートプロジェクト実施報告
1月	新春対談（井桁鳳雄&足立会長）	—
2月	開発教育全国集会（東京）、新春の集い	全国事務局長会議、インドネシア学生招聘
3月	井上俊吾（徳島県育てる会会長）	インドスタディツアー

## 収益事業

### 4. 収益事業

---

#### 1) サポート事業

「サポート事業部」を創設し、職業紹介事業・労働者派遣事業の許可を得て人材紹介事業を展開するとともに、株式会社全国儀式サービスと提携し福利厚生サービスを提供、人生の様々な場面において支援を行う新たな事業を実施するため「サポート会員」を募った。

公益事業を実施するための付帯収益事業の一つとして、まずは社団独自の事業として展開することとした。

#### (1) 職業紹介事業・労働者派遣事業

##### ①定款目的に「職業紹介事業」「労働者派遣事業」を加筆

決 議 : 5月24日(金) 第38回通常総会にて承認

登 記 : 6月12日(水)

##### ②東京労働局に事業申請

申 請 : 7月8日(月)

現地審査 : 8月22日(木)

事前講習 : 9月30日(月)

事業許可 : 10月1日(火)

##### ③帰国隊員のカウンセリングと登録

件 数 : 9件

##### ④帰国隊員への案件紹介

件 数 : 7件

##### ⑤企業からの求人案件

件 数 : 20件

#### (2) サポート会員の募集

##### ①株式会社全国儀式サービスとの契約調印

契約調印 : 5月1日(水)

##### ②サポート会員の募集

募集開始 : 7月16日(火) より通年

会 費 : 1名につき3,000円

会員数 : 40人

## 2) 育てる会ニュースの広告掲載

育てる会ニュースに広告掲載を働きかけ、制作費に充当した。

広告掲載：23 法人・団体

掲載料：4,194,057 円

## 3) 全国特産品などの販売

帰国隊員が生産する特産品などを育てる会ニュースやホームページにて紹介するとともに、イベントなどにて販売した。

### (1) イベントでの販売

#### ① グローバルフェスタ JAPAN2013

場 所：日比谷公園

日 時：10月5日（土）～6日（日）10:00～17:00

販売額：31,150 円

#### ② 「新春の集い」

場 所：ランドマークスクエア・トーキョー

日 時：1月24日（金）17:30～20:00

販売額：25,120 円

### (2) 広報

紙媒体：育てる会ニュース

掲載時期：6月号（お中元特集）、10月号（お歳暮特集）

電子媒体：ホームページ

掲載時期：通年（随時更新）

## 4) 異業種との連携

様々な異業種の法人団体と積極的に交流することにより、会員開拓や既存事業への支援・協力を依頼するとともに、新たな分野での事業を開拓する際のパートナーとして、情報収集や事業連携を図った。

### (1) ジンバブエのダンスユニット「ジャナグル」の公演サポート

次世代を担う子どもたちの異文化理解と協力隊参加者育成を目的に、各県組織ならびに株式会社ブレインアカデミーと協働し、小学校を中心とした学校公演などをサポートした。

実施期間：平成26年6月11日（火）～6月28日（金）

実施件数：6件

概 要：以下のとおり

	公演日	公演地（県名）	公演概要	観客数
1	6/11（火）	私立鶴学園なぎさ公園小学校（広島県）	学校公演	500名
2	6/18（火）	箕面自由学園幼稚園・小学校（大阪府）	学校公演	570名
3	6/21（金）	瀬戸市長根小学校（愛知県）	5年生対象の特別授業	100名



	公演日	公演地（県名）	公演概要	観客数
4	6/22（土）	瀬戸市長根地区ふれあいセンター「連」（愛知県）	一般公演（無料）	500名
5	6/24（月）	市ヶ尾幼稚園（神奈川県）	学校公演	220名
6	6/28（金）	聖ウルスラ学院英智小・中学校（宮城県）	学校公演	348名

(2) ライオンズクラブ会合への参加

①「インドネシア学生招聘事業」への支援要請ならびに報告

対 象 : 都内ライオンズクラブメンバー有志ほか

日 時 : 7月26日（金）、8月26日（月）、9月20日（金）、11月22日（金）  
12月6日（金）、2月20日（木）、2月24日（月）、3月19日（水）

場 所 : 東京都トラック協会ビルほか

参加者 : 伊藤職員、富岡職員

②第24回開発教育全国集会 in 東京への参画要請

対 象 : 都内ライオンズクラブメンバー有志

日 時 : 12月9日（月）18:00~20:00

場 所 : 四ツ谷「多満川」

参加者 : 大石次長

(3) ソロプチミスト会合への参加

①育てる会支援事業の報告と支援・協力要請

対 象 : 都内ソロプチミストメンバー

日 時 : 1月21日（火）11:00~14:00

場 所 : ヒルトン東京

参加者 : 足立会長、奥永事務局長

(4) YMCA 会合への参加

①サポート事業ならびに育てる会活動への支援・協力要請

対 象 : YMCA ワイズクラブメンバー

日 時 : 10月10日（木）18:00~20:00

場 所 : YMCA 山手

参加者 : 大石次長

(5) 地域イベントへの参加

①傳通院祭礼でのブース出展

対 象 : 小石川町地域住民、祭礼参加者など

日 時 : 9月14日（土）10:30~16:00

場 所 : 寿経寺（東京都文京区小石川）

主 催 : 小石川表町



概要：エスニック料理（サモサ）の紹介を通じた、途上国や協力隊活動の紹介など

②浅草「酉の市」でのブース出展

対象：「酉の市」参拝者ほか

日時：11月3日（日）、15日（金）、27日（水）08：00～23：00

場所：長國寺（東京都台東区千束）

主催：ライオンズクラブ有志「日本一大熊手奉納祭り実行委員会」

概要：育てる会カレンダーの販売、協力隊活動の紹介、フィリピン台風支援募金など

(6) 国際協力イベントでのブース出展

①グローバルフェスタ JAPAN2013

対象：国際協力関心層、一般参加者など

日時：10月5日（土）～6日（日）10：00～17：00

場所：日比谷公園（東京都千代田区）

主催：グローバルフェスタ JAPAN2013 実行委員会

概要：育てる会カレンダーの販売、帰国隊員特産品の紹介・販売など

6) 受託事業

これまで培われてきた専門性を活かし、契約に基づいた業務を遂行するとともに、新規案件について積極的に参加した。

(1) 「クロスロード」誌編集・発行業務

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：年15号（増刊号3号含む）の編集・発行

契約期間：平成24年度～平成26年度

備考：増刊号「サポーター向け」の増頁（36頁→44頁）に伴う契約変更  
（1,034,000円増額）

(2) 「クロスロード」誌全国育てる会会員への配布業務

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：育てる会会員へのクロスロード送付

契約期間：平成25年度

(3) JICA ボランティア帰国後事務手続き

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：教育訓練手当の給付業務、各種証明書発行や事務手続きなど

契約期間：平成24年度～平成26年度

(4) JICA ボランティア広報記事作成業務

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：「サポーター宣言」をはじめとする協力隊事業の広報記事の取材・原稿執筆

契約期間：平成 24 年度～平成 26 年度

(5) 平成 25 年度海外派遣研修（マレーシア）の企画・運營業務

委託元：独立行政法人環境再生保全機構

主な業務：マレーシアへの環境教育に係る研修旅行の企画、実施

契約期間：平成 25 年 6 月 24 日（月）～12 月 25 日（水）

落札金額：4,759,650 円

備考：財政基盤の強化を目的とした新規受託事業

(6) JICA ボランティア「BOP ビジネス及び特産品開発への貢献」事例集作成業務

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：企業ならびに JICA ボランティア向け「BOP ビジネス」事例集の編集・発行

契約期間：平成 26 年 4 月 1 日（火）～平成 26 年 9 月 15 日（月）

落札金額：13,674,000 円

備考：財政基盤の強化を目的とした新規受託事業

## 5. 協力隊の理解促進事業

---

### 1) 協力隊活動現地視察の旅

協力隊家族や関係者などを中心に隊員の活動現場を視察していただくことで、協力隊事業の理解者を増やし支援の輪を広げるとともに、自主事業収入の中核として財政基盤安定化に繋げることを目的に実施した。広報宣伝を強化したものの、協力隊員数の減少（昨年度対比 52%）、隊員一時帰国の自由化、途上国向けフライトの多様化などの影響を受け、参加は低調となった。

#### (1) 実施概要

①企画国：32ヶ国

②実施国：9ヶ国

③参加者数：53名

④広報宣伝：以下のとおり

➤育てる会ニュース「視察の旅」特集別冊号を作成し協力隊家族へ送付

➤「視察の旅」の説明を中心にした「家族交流会」を 8 月 3 日（土）に開催

⑤備考：以下の 3 コースにて安全管理などの対応が発生

➤ザンビアコース

体調を崩されたため参加者 1 名が首都に留まり静養（予定どおり帰国）

➤ウガンダコース

フライトキャンセルのため 1 日遅れて帰国

➤セネガルコース

参加者のパスポート、携帯電話の盗難被害

## 2) スタディツアー

全国の育てる会の役員、会員、協力隊に関心がある若者などに参加を呼びかけ、隊員の活動を視察し直接意見を交換することで、今後の支援の在り方についてともに考える機会を設けた。また、現地での体験を通じて協力隊事業や途上国への理解を深めた。

訪問国 : インド

実施期間 : 平成 26 年 2 月 16 日 (日) ~ 22 日 (土)

参加者 : 27 名 (引率者・添乗員含む)

備考 : 当初バングラデシュの企画を進めていたが、現地選挙に伴う治安悪化が懸念されたため訪問国を変更。

## 3) 訓練所視察会

“訓練所から世界が見える” JICA の訪問プログラムを活用して以下のとおり実施した。訓練所視察だけでなく、地域の帰国隊員活動を盛り込み内容の充実を図った。

### (1) 二本松訓練所視察会

主催 : 日本外国語専門学校国際関係学科

実施期間 : 3 月 3 日 (月) ~ 4 日 (火)

参加者 : 45 名 (引率者・教諭含む)

概要 : 以下のとおり

#### ① 訓練所施設見学

#### ② 帰国隊員報告会

➤ 観光隊員 (ペルー) の活動

➤ エイズ対策隊員 (ボツワナ) の活動

#### ③ 語学訓練体験

➤ 少人数制による 7 言語の授業参加

#### ④ 異文化ワークショップ

➤ テーマ「ストリートチルドレン」

#### ⑤ 地域における帰国隊員活動、国際理解普及活動の視察

➤ 東日本大震災被災者支援グループ「ひらそる」の活動視察

➤ NPO 法人「ルワンダの教育を考える会」の活動視察

## 4) 「協力隊を育てる会カレンダー」の制作・販売

協力隊員及び関係者から写真を提供いただき、途上国理解や協力隊事業の理解促進を目的に制作、配布・販売した。

テーマ : 「未来への希望」

写真 : 応募作品から 5 地域に分けて月別写真を選定

印刷部数 : 20,000 部

販売価格 : 一般 1,000 円 / 会員 700 円 / 3 部以上購入の場合は 500 円

販売部数 : 13,906 部

販売総額 : 6,342,065 円

## 組織関連事業

### 6. 組織関連事業

---

#### 1) 会員の拡大

当会の全ての事業を通じて関わり合いを持った個人、団体、企業に積極的に働きかけを行うとともに、ホームページやパンフレット等の広報媒体の見直しと充実を図り、入会促進を行った。

	目標数	3月31日現在
個人会員	900名	575名
団体会員	150団体	105団体
法人会員	42法人	34法人
全国育てる会 会員数	3,118名（法人団体含む）	

#### 2) 広報活動の強化

育てる会活動の理解促進と事業充実を図るため、Webを活用した様々な取り組みを展開した。

(1) 協力隊経験者による特産品ショップ情報の収集と情報提供を行った。

紹介件数：44店舗

掲載時期：通年（随時更新）

(2) Facebookを活用した隊員情報の収集を開始した。

「いいね」数：155件（前四半期比170%増）

#### 3) 公的資格の取得

新規事業の展開、コンプライアンス、リスク管理の面から以下の資格を取得した。

(1) 有料職業紹介事業・労働者派遣事業

書類申請：7月8日（月）

現地審査：8月22日（木）

事業許可：10月1日（火）

(2) プライバシーマークの更新

書類申請：5月27日（月）

現地審査：8月13日（火）

改善指示：人材紹介事業に伴う個人情報の管理、個人情報委託業者の調査など、指導を受け  
改善報告書を提出

更新認可：12月1日（日）

#### 4) 役員会等の運営

##### (1) 第 38 回通常総会

開催日 : 5 月 24 日 (金)

場 所 : JICA 市ヶ谷

##### 【プログラム】

##### 第 1 部 通常総会

概 要 : 平成 24 年度事業・決算報告、平成 25 年度事業計画・収支予算、役員補充、定款の変更に関する議案を承認

来 賓 : 松山政司 (外務副大臣)

三原朝彦 (衆議院議員)

高木義明 (衆議院議員)

##### 第 2 部 講演会

講 師 : 麻生 紘二

(一般財団法人全日本野球協会理事、日本アマチュア野球規則委員会委員長)

テーマ : 「初めての外国人野球審判スジーワさんに期待すること」

講 師 : スジーワ・ウィジャヤナーヤカ

(元協力隊員教え子、アジア野球連盟所属国際審判員)

テーマ : 「隊員の教え子が語る青年海外協力隊事業～スリランカでプロ野球が始まる日」

参加者 : 120 名

##### 第 3 部 交流会

来 賓 : 竹下 亘 (衆議院議員)

山花郁夫 (前衆議院議員)

参加者 : 120 名

##### (2) 理事会

以下のとおり年 4 回開催した。

回	日時	場所	議題
第 1 回	5 月 13 日 (月) 16 : 00 ~ 18 : 00	ホテルグランドヒル	平成 24 年度事業報告・決算報告 (案) 平成 25 年度事業計画・収支予算 (案) など
第 2 回	9 月 17 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 00	JICA 市ヶ谷	平成 25 年度上半期報告 平成 25 年度下半期計画 など
第 3 回	12 月 16 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00	ホテルグランドヒル	平成 25 年度第 3 四半期報告 平成 25 年度第 4 四半期計画 など
第 4 回	3 月 24 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00	ホテルグランドヒル	平成 25 年度活動報告・決算見込み (案) 平成 26 年度活動計画・収支予算 (案) など

(3) 常任理事会

原則として以下のとおり毎月開催した。

期	日時	場所	期	日時	場所
4月	4月17日(水) 15:00~17:00	JICA市ヶ谷	11月	11月22日(金) 13:00~15:00	日本青年館
5月	5月8日(水) 15:00~17:00	JICA市ヶ谷	12月	12月11日(水) 17:00~19:00	育てる会事務局
6月	6月19日(水) 16:00~18:00	育てる会事務局	1月	1月16日(木) 15:00~17:00	JICA市ヶ谷
7月	7月16日(火) 15:00~17:00	JICA市ヶ谷	2月	2月12日(水) 15:00~17:00	JICA市ヶ谷
9月	9月17日(火) 13:00~15:00	JICA市ヶ谷	3月	3月12日(水) 15:00~17:00	JICA市ヶ谷

※10月期は台風の影響により書面決議とした

(4) 顧問・参与会議

以下のとおり年2回開催した。

回	日時	場所	議題
第1回	6月6日(木) 16:30~18:30	市ヶ谷 Buono	第38回通常総会について 新規事業への取り組みについて など
第2回	12月16日(月) 17:30~18:30	ホテルグランドヒル	育てる会の現況と活動方針について など

5) 各種交流会の開催

(1) 新春の集い

開催日 : 平成26年1月24日(金) 17:30~19:30

場 所 : ランドマークスクウェア・トーキョー

概 要 : 「青年海外協力隊のさらなる飛躍を目指して」

国会議員による卓話

来 賓 : 額賀 福志郎(衆議院議員)

平口 洋(衆議院議員)

三原 朝彦(衆議院議員)

田沼 隆志(衆議院議員)

参加者 : 107名



6) 慶弔

(1) 春の叙勲

賞名	授賞者	役職
旭日中綬章	西川 政善	前徳島県協力隊を育てる会育てる会会長
旭日双光章	野津 一成	鳥取県協力隊を育てる会副会長
瑞宝小綬章	和美 宏幸	岩手県青年海外協力隊を育てる会副会長

(2) 秋の叙勲

賞名	授賞者	役職
黄綬褒章	白瀧八州彦	愛媛県青年海外協力隊を育てる会運営委員
藍綬褒章	朝日 恵子	福井県青年海外協力隊等を支援する会副会長

(3) そのほか表彰

賞名	受章者
第9回 JICA 理事長表彰	茨城県青年海外協力隊を育てる会（団体）

① 「JICA 理事長表彰受章を祝う会」を開催

開催日 : 10月7日（月）18:30~20:00

場 所 : JICA 市ヶ谷

参加者 : 30名

7) 人事

(1) 採用

氏名	採用日	雇用形態	業務・職制
藤澤 礼香	5月1日	嘱託職員	帰国隊員支援業務
山崎 優子	5月1日	嘱託職員	帰国隊員支援業務
坂部 修一	7月1日	嘱託職員	サポート事業部本部長
富岡加奈子	8月7日	嘱託職員	事業部
田岡亜沙子	11月1日	嘱託職員	クロスロード編集室

(2) 退職

氏名	退職日	雇用形態	業務・職制
青木 杏里	8月30日	臨時職員	事業部
佐治 香奈	10月4日	嘱託職員	クロスロード編集室
中鉢 友子	3月31日	嘱託職員	総務部
田岡亜沙子	3月31日	嘱託職員	クロスロード編集室

8) その他

(1) 事務局体制の変更

事務局次長職、総務部、事業部、サポート事業部、受託事業部を新たに設けることを平成25年第2回理事会にて承認。

以上

\*\*\*\*\*

【平成25年度事業報告附属明細書】

平成25年度事業報告における、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項」に規定する附属明細書「事業内容を補足する重要な事項」については、前述の事業報告内に含まれているため別途作成しない。



# 平成26年度事業計画

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)

昭和 51 年に「協力隊の応援団」として設立された当会は、これまで市民による青年海外協力隊事業の支援をはじめ、日本青年の協力隊参加を促す社会環境づくりを目指して活動してきました。そして、平成 28 年には設立 40 周年という大きな節目を迎えようとしています。

昭和 40 年に発足した青年海外協力隊事業は、平成 27 年に 50 周年を迎えます。この半世紀にわたる活動によって培われてきた「世界の人々と共に生きる」という精神は、今や国際社会において「世界に求められる日本」を具現化する人材の育成に活かされ、それは我が国日本が進める成長戦略の要としても大きく期待されています。

一方で、ダイナミックなグローバル化に加えて世代間の価値観も変化していく中、協力隊事業のみならず、当会を取り巻く環境も大きく変化してきました。

こうした中、『協力隊は日本の宝、育てていかす社会をつくる』をスローガンに掲げている当会は、諸先輩方の創り上げてきた長い歴史を継承しつつ、新たなビジョンを具体的に示すとともに行動に移していくことが求められています。

一昨年、当会は一般社団法人として新たなスタートを切り、より自由な発想と「内から外へ」の姿勢を持って、財政基盤強化を目的にした新規事業の開拓と効率的な事業運営を掲げ、これまでにないイノベーションに取り組んできました。

真に自立した組織として、青年海外協力隊をはじめとする JICA ボランティア事業を支えていくことができるのか、あらためて問われている今、当会は今年度を昨年植えた「種」に「芽」を息吹かせる年として位置づけ、以下のとおり目標を掲げます。

## 【重点事業】

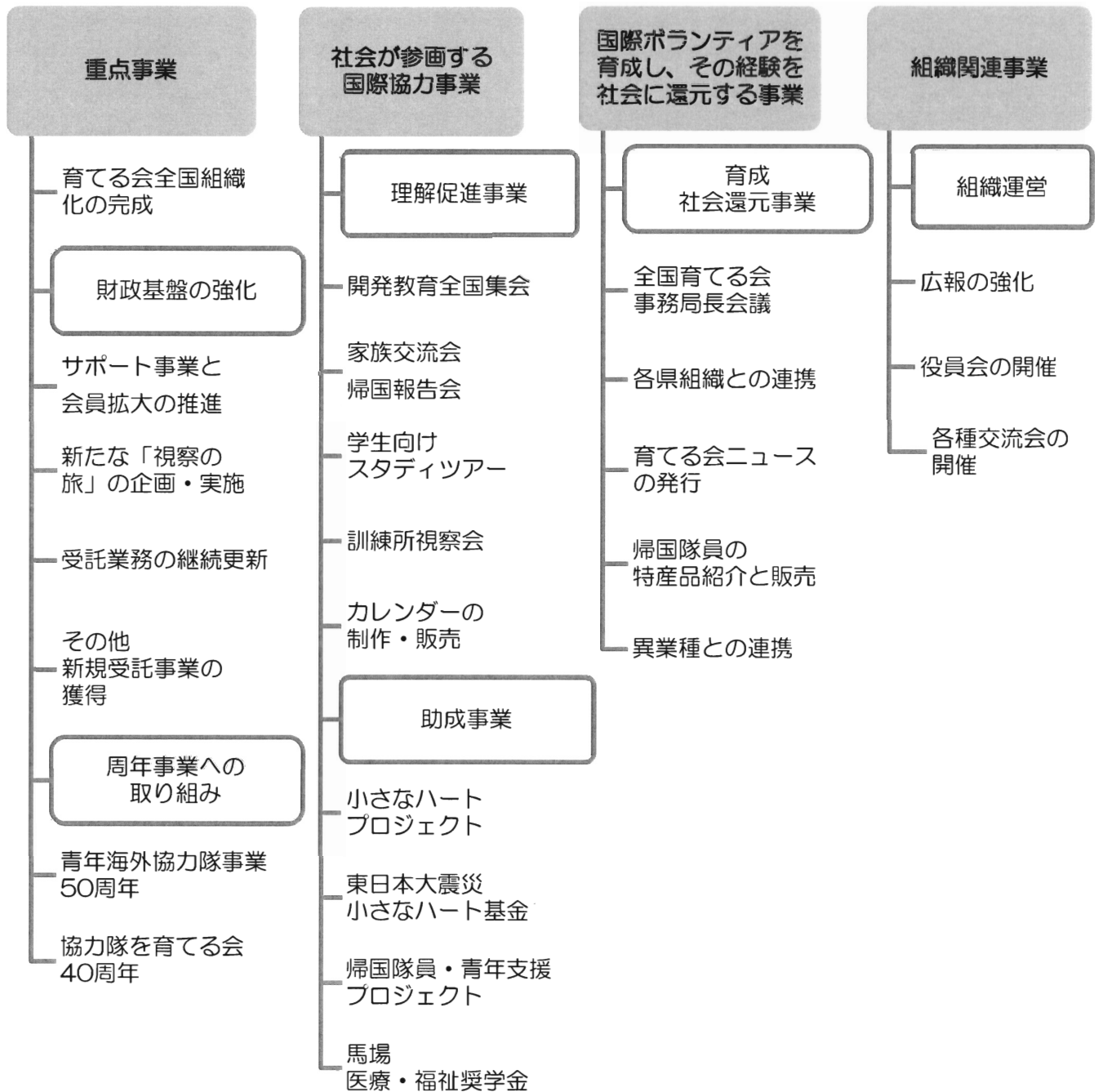
1. 育てる会全国組織化の完成を目指す
2. サポート事業と会員拡大の推進
3. 「視察の旅」と「スタディツアー」の一体的運用
4. 受託事業の継続と新規案件の獲得
5. 協力隊事業 50 周年、育てる会 40 周年に向けた取り組みの検討

当会の活動は、会員をはじめ皆さまのお力添えがあってこそ大きな成果に繋がるものです。皆さまにおかれましては、今後とも倍旧のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【記載の所属・役職名などは作成当時の表記としております】

## 協力隊を育てる会の使命

青年海外協力隊をはじめとする国際ボランティア（以下「協力隊等」という。）事業に市民の立場から参加しやすい社会環境を創り、次世代を担う人材の創出及び育成を図るとともに、協力隊等が得た経験を共有することで多様な価値観を尊重する平和で豊かな社会を築き、国際社会と地域社会の発展に寄与する。



## 重点事業

### 1. 育てる会全国組織化の完成を目指す

---

「協力隊の応援団」として日本全国から支援の声を発することができるよう、未組織の4府県（京都府、奈良県、静岡県、神奈川県）にて組織化を目指す。

#### 【実施方針】

- 1) 京都府・奈良県
  - (1) 設立準備メンバーと地域の帰国隊員との連携強化を図る。
  - (2) 平成26年度中の設立を支援する。
  
- 2) 静岡県・神奈川県
  - (1) 地域の設立支援者との意見交換と情報共有を強化する。
  - (2) 平成26年度中の準備会設立を目指す。

### 2. サポート事業と会員拡大の推進

---

帰国隊員支援を含めた協力隊事業への幅広い支援を実現させるために、昨年発足させた当事業のサービスを会員拡大のツールとして活用し、財政基盤の強化に繋げる。

#### 【実施方針】

- 1) サポート事業の理解促進
  - (1) 会員拡大の起爆剤として新たに「サポート会員制度」を設立
    - ①年会費は以下のとおりとする。
      - 個人会員 3,000円/年間
      - 団体会員 1,000円/年間（但し10名以上の加入を原則）
    - ②株式会社全国儀式サービスと提携し以下の特典を提供する。
      - 葬儀支援サービス
      - ブライダルサービス
      - レジャー&トラベルサービス
      - 生活関連電話サービス
  
  - (2) 個人正会員に対する「サポート会員制度」特典の提供
    - ①個人正会員に「サポート会員制度」の特典を提供する。
      - 既存の正会員には6月1日より提供
      - 新規入会会員には加入時（随意）より提供

(3) 全国ネットワークによる入会促進

- ①各県組織の正会員の取り扱いは要請に応じて前述のとおり特典を提供するが、その掛け金（1,000円）の取り扱いについては各県組織の判断による。
- ②各県組織による新規加入者は全て団体会員として扱う。
- ③各県組織からの要請に基づき（株）全国儀式サービスとの連携営業を実施する。

2) 人材紹介業

(1) 帰国隊員の登録数拡大の促進

- ①メーリングリストやWeb、SNSを通じた帰国隊員への広報
- ②帰国隊員向けのカウセリング、セミナーの随時開催

(2) 求人案件の登録数拡大の促進

- ①企業に限定せず福祉法人やNPO/NGOなどの非営利団体を含めた案件登録

3) 会員拡大

正会員、サポート会員を含めて全体で10%拡大を目標に取り組む。

### 3. 「視察の旅」と「スタディツアー」の一体的運用

---

協力隊員の家族を中心に実施してきた「視察の旅」に、「スタディツアー」参加者を加えて一体的運用することで、催行人数を満たしより多くの国で実施できるよう、新たに大手旅行会社との連携によって企画内容の充実化とより幅広い方々の参加に努め、協力隊事業の理解促進と財政基盤の強化に繋げる。

【実施方針】

1) 「視察の旅」の企画・実施

- (1) 協力隊員の家族を中心に参加を求める。
- (2) 中東、アフリカ、アジア、中南米、大洋州より37ヶ国にて実施する。

2) 新たなスタディツアー「視察の旅プラス」の企画・実施

- (1) 数ヶ国を企画し、旅行会社と提携して募集型企画旅行として実施する。
- (2) 従来の「視察の旅」に一般の方々の参加希望者層を加えることで催行数を増やす。
- (3) 毎年2月に実施してきた従来型の「スタディツアー」の継続についても検討する。
- (4) 今年度より新たに多種多様な顧客層と宣伝力を有する（株）JTB、（株）H.I.S.などとの連携を検討する。

## 4. 受託事業の継続と新規案件の獲得

---

今年度更新となる JICA 受託事業の継続契約を確実なものにするため、現業務を確実に遂行するとともに次回公示に向けた準備・対策を行う。また、前回公示の際に落札できなかった案件をはじめ、省庁を問わず当会の専門性を活かせる様々な案件に対し積極的に入札参加することにより、財政基盤の強化に繋げる。

### 【実施方針】

#### 1) 継続案件

##### (1) 「クロスロード」誌編集・発行業務

委託元 : 独立行政法人国際協力機構

主な業務 : 年 15 号 (増刊号 3 号含む) の編集・発行

契約期間 : 平成 24 年度～平成 26 年度

次回公示 : 11 月～12 月頃

主な対策 : 情報収集などプロポーザル作成の事前準備  
業務実施体制の強化

##### (2) JICA ボランティア帰国後事務手続き

委託元 : 独立行政法人国際協力機構

主な業務 : 教育訓練手当の給付業務、各種証明書発行等の事務手続きなど

契約期間 : 平成 24 年度～平成 26 年度

次回公示 : 11 月～12 月頃

主な対策 : 職員とバックアップ要員によるタスクチーム発足  
情報収集などプロポーザル作成の事前準備

##### (3) JICA ボランティア広報記事作成業務

委託元 : 独立行政法人国際協力機構

主な業務 : 「サポーター宣言」をはじめとする協力隊事業の広報記事の取材・原稿執筆

契約期間 : 平成 24 年度～平成 26 年度

次回公示 : 未定

主な対策 : 情報収集などプロポーザル作成の事前準備  
業務実施体制の強化

##### (4) JICA ボランティア「BOP ビジネス及び特産品開発への貢献」事例集作成業務

委託元 : 独立行政法人国際協力機構

主な業務 : 企業ならびに JICA ボランティア向け「BOP ビジネス」事例集の編集・発行

契約期間 : 平成 26 年度～平成 26 年度

主な対策 : 的確な業務実施

備考 : 平成 25 年度新規落札

## 2) 新規案件

### (1) JICA ボランティア帰国後支援業務

委託元 : 独立行政法人国際協力機構

主な業務 : 帰国隊員受付、進路開拓セミナーの開催など

次回公示 : 11月～12月頃

主な対策 : 職員とバックアップ要員によるタスクチーム発足

前回入札の課題究明と対策検討

情報素材収集などプロポーザル作成の事前準備

## 5. 青年海外協力隊事業 50 周年、協力隊を育てる会 40 周年への取り組み

青年海外協力隊事業 50 周年を次年度に控え、育てる会の持つ専門性やノウハウを活かした企画を JICA 青年海外協力隊事務局に働きかける。また、育てる会 40 周年については、企画概要を支援・事業委員会にて検討し準備を進めていく。

### 1) 青年海外協力隊事業 50 周年（平成 27 年度）

#### (1) 書籍の編集・発行を企画・提案する。

企画 : 青年海外協力隊の半世紀の軌跡を綴る

概要 : 協力隊 50 年の歴史をトピックスや隊員の活動を紹介しながら幾つかの時代ごとに綴り、資料性の高い内容とする

#### (2) 全国型イベントの開催を企画・提案する。

企画 : 全国の育てる会や協力隊事業の支援者、市民に参加を呼びかけ協力隊事業の意義を再確認する機会とする。

場所 : 国内 14 ヶ所にある JICA 拠点（予定）

開催時期 : 平成 27 年度（予定）

### 2) 協力隊を育てる会 40 周年（平成 28 年度）

#### (1) 記念大会などのイベント開催を検討する。

#### (2) 感謝状・表彰状授与について検討する。



## 社会が参画する国際協力事業

### 理解促進事業

---

#### 1) 開発教育全国集会

協力隊事業を通じた国際理解と協力隊経験の社会還元を広く市民に周知・理解していただく場として、昨年度に続き「新春の集い」「全国事務局長会議」と併せて開催する。尚、各県組織の実施する講演会や周年事業との併催についても、要請に応じて適宜開催する。

##### (1) 第25回開発教育全国集会 in 東京

開催日 : 平成27年1月21日(水) 14:00~18:00(予定)

場 所 : 東京都内

テーマ : 世界と日本の「水」問題(仮題)

#### 2) 家族交流会・帰国報告会

協力隊事業の理解普及を目的に、協力隊家族をはじめ将来協力隊参加を志す学生、また社会貢献団体などを対象に帰国隊員の活動報告会を機会あるごとに企画、開催する。

##### (1) 家族交流会

対 象 : 協力隊家族ならびに協力隊参加希望者

実施数 : 年3回程度

##### (2) 帰国報告会

対 象 : 社会貢献団体や企業団体関係者

実施数 : 適宜

#### 3) 学生向けスタディツアーの企画・実施

異文化・国際理解教育などに関心のある学校などを対象に、協力隊員の活動現場を視察するスタディツアーを企画・実施する。

##### (1) 山形県庄内町学生の海外派遣研修

主 催 : 山形県庄内町、同教育委員会

対 象 : 山形県庄内町の中学生・高校生

実施期間 : 平成26年12月頃(1週間)

場 所 : マレーシア・サバ州

概 要 : 協力隊活動視察、環境保全活動体験など

#### 4) 訓練所視察会の企画・実施

JICAの“訓練所から世界が見える”訪問プログラムを活用し、グローバル人材や異文化・国際理解教育などに関心のある企業や教育機関を対象に、JICA二本松ならびに駒ヶ根訓練所の体験・視察会を企画・実施する。

##### (1) 学生向け訓練所視察会

主催：日本外国語専門学校ほか

対象：同校学生ほか

開催日：平成27年2月～3月（1泊2日）

概要：語学ならびに異文化授業体験、帰国報告会開催、帰国隊員活動視察など

#### 5) 「協力隊を育てる会カレンダー」の制作・販売

協力隊員及び帰国隊員から写真を提供いただき、途上国や協力隊事業の理解促進を目的に制作・販売する。

テーマ：途上国で生きる人々（協力隊派遣国の人々や子どもたち）

仕様：A4横／フルカラー／14枚綴り（28P）／オリジナル名入れ・メッセージ印字

制作数：15,000部

制作期間：5月～8月

販売開始：9月頃

## 助成事業

---

### 1) 小さなハートプロジェクト

協力隊員が本来の業務以外に企画するプロジェクトに対して支援金を募り、活動を支援する。プロジェクト支援によって、途上国の人々の生活向上に寄与するだけでなく、青年海外協力隊を通して支援者と途上国の人々との繋がりを強め、国際協力に対する気運を高める。

支援金額：1件につき上限300,000円

支援件数：10件程度

募集期間：通年

審査選考：選考委員により随時実施

### 2) 東日本大震災「小さなハート基金」

東日本大震災の復興支援活動をはじめ、その経験をもとに地域活性化などに取り組む帰国隊員の活動に対し支援を行う。

支援金額：1件につき上限300,000円

支援件数：5件程度

募集期間：通年

審査選考：選考委員により随時実施



3) 帰国隊員・青年支援プロジェクト

公益財団法人三菱 UFJ 国際財団の支援を基に、帰国隊員の国際協力活動等を支援する。

支援金額：1 件につき上限 500,000 円

支援総額：2,700,000 円

募集期間：7 月 1 日（火）～8 月 31 日（日）

審査選考：審査委員会にて 10 月頃実施

4) 馬場医療・福祉奨学金

医療・福祉分野への就職を希望する帰国隊員を対象とし、返済義務を付し支援する。

支援金額：1 件につき上限 500,000 円

支援総額：1,000,000 円

募集期間：7 月 1 日（火）～8 月 31 日（日）

審査選考：帰国隊員・青年支援プロジェクトの審査選考と併せて実施

5) 地域の育てる会活動助成

各地域のボランティアによる育てる会活動に対し、活動助成金を給付する。

支援金額：1 組織につき上限 80,000 円

給付時期：夏～秋（予定）

対象事業：以下の 3 事業

- ①協力隊に参加し易く、その経験を地域に活かす社会環境整備活動
- ②協力隊事業の理解促進のための広報啓発活動
- ③「協力隊の応援団」を地域で増やす支援者拡充活動

## 国際ボランティアを育成しその経験を社会に還元する事業

### 育成・社会還元事業

---

#### 1) 全国育てる会事務局長会議

育てる会活動における情報共有と連携強化を目的として、「第25回開発教育全国集会 in 東京」  
「新春の集い」と併せて全国育てる会の事務局長会議を開催する。

開催日 : 平成27年1月22日(木) 9:30~15:30(予定)

場所 : 東京都内

参加組織 : 全国育てる会、未組織県の組織化支援者、JICA 青年海外協力隊事務局など

#### 2) 各県組織との連携強化

全国組織としての活動を更に活発化させるため、メーリングリストやSNSを活用した情報共有を  
充実させるとともに、機会あるごとに事業連携を行う。

#### 3) 「協力隊を育てる会ニュース」の発行

全国育てる会と会員、派遣中の協力隊員、帰国隊員、法人団体などの支援者とを結ぶ“育てる会  
活動の情報ツール”として、育てる会の活動や帰国隊員の取り組み、協力隊事業の動向などを紹介  
する。

発行数 : 約10,000部/毎月

仕様 : モノクロ/タブロイド版/4ページ

紙面構成 : 1面~最新トピックス、国際協力時評

2面~全国育てる会や地域の支援者の活動紹介

3面~派遣中隊員、帰国隊員向けの支援情報

4面~各種インフォメーション

#### 4) 帰国隊員による特産品などの販売促進

全国組織としてのネットワークを活かし、帰国隊員による世界の特産品などの情報をまとめ、Web  
や育てる会ニュースにて紹介するとともに、販売を行う。

広報媒体 : Web、育てる会ニュース

販売促進 : カタログギフト展開、全国組織との連携による実地販売、オンライン販売

#### 5) 異業種との連携

異業種との交流や事業連携を機会あるごとに行い、他団体との相互補完関係を構築する。人脈や  
情報の裾野を広げ事業ノウハウの蓄積に繋げるとともに、育てる会活動や協力隊事業の広報、入会  
促進、既存事業への支援・協力を図る。

##### (1) ライオンズクラブなど各種団体との連携

① 記念イベントや地域祭礼などにおける広報活動

② 帰国隊員による国際協力、社会貢献活動などへの支援仲介

③JICA ボランティア事業の広報・参加促進

(2) 大学、専門学校など教育機関との連携

①訓練所体験視察会やスタディツアーの企画

②学内募集説明会の企画

③JICA ボランティア事業の広報・参加促進

(3) 法人団体との連携

①サポート会員の募集協力

②新規支援者の紹介

③民間連携ボランティアや現職参加への応募促進、帰国隊員の人材活用

④新規受託事業の共同実施

(4) NPO/NGO との連携

①防災士研修センターによる防災士資格研修の促進

②新規受託事業の共同実施

## 組織関連事業

### 組織運営

---

#### 1) 広報の強化

育てる会活動を広く周知するため、Web や SNS を活用した広報を更に充実させる。

##### (1) Web による情報発信

- ①育てる会活動の最新トピックスや各種イベント情報などの提供
- ②帰国隊員による特産品やショップ情報の提供
- ③各種支援情報の提供

##### (2) SNS を活用した隊員情報の収集

- ①各県組織との情報共有
- ②カレンダー写真の募集
- ③報告会の講師、視察の旅引率者の募集
- ④人材紹介事業の登録者募集

#### 2) 役員会の開催

一般社団法人としての確かな組織運営ならびに事業活動を推進することを目的に、各種会議などを開催する。

##### (1) 第 39 回通常総会

開催日 : 5 月 23 日 (金) 14 : 00 ~ 19 : 30

場 所 : 日本青年館

##### 【プログラム】

第 1 部 通常総会

第 2 部 特別講演会

講師 : 山本保博氏

「日本人だからこそできる国際支援

～国際緊急援助隊と青年海外協力隊 共に歩む日本の支援～」

第 3 部 交流会

##### (2) 理事会

年 3 回の開催 (5 月、12 月、3 月)

##### (3) 常任理事会

原則として毎月開催

(4) 委員会

支援、事業、総務の3委員会を必要に応じて適宜開催

(5) 顧問・参与会議

原則として年2回程度開催

3) 各種交流会の開催

(1) 「新春の集い」

昨年度に続き、「第25回開発教育全国集会 in 東京」「全国事務局長会議」の懇親会と併せて開催する。

開催日 : 平成27年1月21日(水) 18:30~20:00(予定)

場 所 : 東京都内

以上

平成 26 年度収支予算

(単位: 円)

	科 目	当年度	昨年度	増減
	<b>1. 事業活動収入</b>			
1	基本財産運用収入	10,000	18,000	△ 8,000
2	入会金収入	260,000	210,000	50,000
3	会費収入	7,300,000	8,100,000	△ 800,000
4	研修交流会費収入	1,630,000	2,015,000	△ 385,000
5	視察の旅・ステージツアー-研修会費収入	1,900,000	9,840,000	△ 7,940,000
6	広告料収入	4,800,000	5,500,000	△ 700,000
7	手数料収入	1,400,000	700,000	700,000
8	図書販売手数料収入	50,000	1,000,000	△ 950,000
9	各県加送手数料収入	4,416,000	4,416,000	0
10	カレンダー販売収入	5,700,000	6,720,000	△ 1,020,000
11	サポート会員収入	1,250,000	4,500,000	△ 3,250,000
12	職業紹介手数料収入	3,000,000	500,000	2,500,000
13	帰国隊員等手続受託収入	17,619,000	17,128,000	491,000
14	クロス・広報記事編集受託収入	68,659,000	65,922,000	2,737,000
15	その他受託事業収入	19,767,000	0	19,767,000
16	助成金収入	3,000,000	3,700,000	△ 700,000
17	寄付金収入	2,000,000	4,500,000	△ 2,500,000
18	奨学金貸付戻収入	287,000	287,000	0
19	雑収入	31,000	207,000	△ 176,000
20	事業活動収入計	143,079,000	135,263,000	7,816,000
	<b>2. 事業活動支出</b>			
21	小さなハートプロジェクト事業費	1,254,000	2,400,000	△ 1,146,000
22	震災支援事業費	312,000	2,000,000	△ 1,688,000
23	開発教育活動費	607,000	607,000	0
24	OB 支援事業費	2,726,000	2,726,000	0
25	ボランティア活動助成費	3,814,000	4,054,000	△ 240,000
26	全国代表者・ブロック会議費	1,886,000	2,108,000	△ 222,000
27	組織対策費	700,000	1,450,000	△ 750,000
28	研修交流会費	2,157,000	1,497,000	660,000
29	視察の旅・ステージツアー-事業費	1,372,000	2,924,000	△ 1,552,000
30	育てる会カレンダー作成費	2,397,000	3,317,000	△ 920,000
31	加送等製作・発送費	28,152,000	28,190,000	△ 38,000
32	人材紹介事業費	117,000	935,000	△ 818,000
33	サポート会員事業費	1,134,000	1,860,000	△ 726,000
34	奨学金貸付金	500,000	500,000	0
35	広告宣伝費	52,000	105,000	△ 53,000
36	インターネット関連費	722,000	779,000	△ 57,000
37	広報資料作成費	110,000	460,000	△ 350,000
38	育てる会ニュース作成費	2,681,000	2,729,000	△ 48,000
39	その他受託事業費	14,216,000	0	14,216,000
40	ジャナグル事業費	710,000	0	710,000
41	会議費	1,347,000	1,127,000	220,000
42	人件費	56,553,000	58,188,000	△ 1,635,000
43	交通費	810,000	610,000	200,000
44	事務費	9,010,000	9,394,000	△ 384,000
45	負担費	2,972,000	2,285,000	687,000
46	租税公課	4,800,000	3,000,000	1,800,000
47	雑費	832,000	636,000	196,000
48	予備費	1,136,000	1,382,000	△ 246,000
49	事業活動支出計	143,079,000	135,263,000	7,816,000
50	事業活動収支差額	0	0	0

一般社団法人 協力隊を育てる会

## 第 39 回通常総会

### 議案書

- |         |  |
|---------|--|
| 第 1 号議案 | 平成 25 年度決算承認の件<br>公益目的支出計画実施報告書<br>監事監査報告書 |
| 第 2 号議案 | 役員に関する件                                    |

日 時 : 平成 26 年 5 月 23 日 (金)

会 場 : 日本青年館国際ホール



# 決 算 報 告 書

---

(第 1 期)

自 平成 25 年 4 月 1 日  
至 平成 26 年 3 月 31 日

一般社団法人協力隊を育てる会

**正味財産増減計算書**

平成25年 4月 1日から平成26年 3月31日（決算）まで

法人名：一般社団法人協力隊を育てる会  
事業名：事業全体

（単位： 円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
基本財産運用益	6,776	19,090	△12,314
基本財産受取利息	6,776	19,090	△12,314
受取入金会金	149,000	147,000	2,000
受取入金会金	149,000	147,000	2,000
受取会費	14,911,147	7,846,260	7,064,887
正会員受取会費	6,068,200	6,364,760	△296,560
研修会受取会費	8,842,947	1,481,500	7,361,447
事業収益	101,616,840	101,815,317	△198,477
広告料収入	4,194,057	4,045,159	148,898
手数料収入	6,976,498	11,038,612	△4,062,114
カレンダー等販売収入	6,342,065	5,260,060	1,082,005
帰国隊員等支援受託収入	17,130,085	17,130,086	△1
クロス編集業務受託収入	66,061,859	63,399,185	2,662,674
クロス差込収益	912,276	942,215	△29,939
受取補助金等	3,000,000	3,000,000	0
受取民間助成金	3,000,000	3,000,000	
受取寄付金	2,395,880	7,618,802	△5,222,922
受取寄付金	2,395,880	7,618,802	△5,222,922
雑収益	421,245	4,440,647	△4,019,402
受取利息	4,911	7,299	△2,388
雑収益	416,334	4,433,348	△4,017,014
他会計からの繰入額	0	1,730,000	△1,730,000
収益会計からの繰入額		1,730,000	△1,730,000
經常収益計	122,500,888	126,617,116	△4,116,228
經常費用			
事業費	109,142,534	109,395,870	△253,336
給料手当	41,393,587	41,272,061	121,526
退職共済掛金	774,400	1,110,000	△335,600
福利厚生費	6,009,408	7,902,165	△1,892,757
旅費交通費	7,903,990	7,546,688	357,302
通信運搬費	5,108,096	6,267,905	△1,159,809
会議費	1,936,084	2,547,505	△611,421
消耗品費		144,179	△144,179
修繕費	690,018		690,018
印刷製本費	18,508,017	18,172,310	335,707
賃借料	2,845,191	1,000	2,844,191
保険料	7,380		7,380
諸謝金	3,698,531	1,628,325	2,070,206
租税公課	3,121,100	2,343,000	778,100
支払負担金	54,400	95,340	△40,940
支払助成金	8,131,063	10,415,298	△2,284,235
委託費	6,673,844	6,818,526	△144,682
雑費	2,287,425	3,131,568	△844,143
管理費	18,311,067	21,646,839	△3,335,772
給料手当	4,099,495	4,818,704	△719,209
退職共済掛金	185,600		185,600
福利厚生費	594,873	1,244,444	△649,571
会議費	1,172,230	1,006,903	165,327
旅費交通費	921,242	686,810	234,432
通信運搬費	891,692	1,100,325	△208,633
減価償却費	62,475	55,125	7,350

法人名：一般社団法人協力隊を育てる会  
 事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
消 耗 品 費	435,667	1,314,719	△879,052
修 繕 費	227,839	1,550,201	△1,322,362
印 刷 製 本 費	391,302	10,000	381,302
光 熱 水 料 費	627,483	359,338	268,145
賃 借 料	3,647,010	6,852,023	△3,205,013
保 険 料	77,490	18,930	58,560
諸 謝 金	30,000	193,560	△163,560
租 税 公 課	6,150	2,128	4,022
支 払 負 担 金 費	3,624,356		3,624,356
雑 費	1,316,163	2,433,629	△1,117,466
他 会 計 へ の 繰 出 額	0	1,730,000	△1,730,000
法 人 会 計 へ の 繰 出 額		1,730,000	△1,730,000
経 常 費 用 計	127,453,601	132,772,709	△5,319,108
評 価 損 益 等 調 整 前 当 期 経 常 増 減 額	△4,952,713	△6,155,593	1,202,880
評 価 損 益 等 計	0	0	0
当 期 経 常 増 減 額	△4,952,713	△6,155,593	1,202,880
経 常 外 増 減 の 部			
経 常 外 収 益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
経 常 外 費 用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
税 引 前 当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△4,952,713	△6,155,593	1,202,880
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	3,609,900	1,825,000	1,784,900
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△8,562,613	△7,980,593	△582,020
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	81,720,787	89,701,380	△7,980,593
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	73,158,174	81,720,787	△8,562,613
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正 味 財 産 期 末 残 高	73,158,174	81,720,787	△8,562,613

## 貸 借 対 照 表

平成 26 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：一般社団法人協力隊を育てる会

事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資 産 の 部</b>			
<b>流 動 資 産</b>			
現 金 預 金	26,147,393	33,815,397	▲7,668,004
現 金	479,784	358,484	121,300
普 通 預 金	25,667,609	33,456,913	▲7,789,304
未 収 金 品	25,482,795	24,984,370	498,425
貯 蔵 品	90,835	91,100	▲265
流動資産合計	51,721,023	58,890,867	▲7,169,844
<b>固 定 資 産</b>			
基 本 財 産 金			
定 期 預 金	20,000,000	20,000,000	
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
特 定 資 産			
奨 学 貸 付 引 当 資 産	5,933,749	6,433,749	▲500,000
特定資産合計	5,933,749	6,433,749	▲500,000
そ の 他 固 定 資 産			
建 物	249,900	312,375	▲62,475
敷 金	806,000	806,000	
奨 学 貸 付 金	1,577,052	1,334,041	243,011
その他固定資産合計	2,632,952	2,452,416	180,536
固定資産合計	28,566,701	28,886,165	▲319,464
資産合計	80,287,724	87,777,032	▲7,489,308
<b>II 負 債 の 部</b>			
<b>流 動 負 債</b>			
未 払 金	125,199	1,945,254	▲1,820,055
前 受 金	994,300	1,319,400	▲325,100
預 り 金	412,451	966,591	▲554,140
未 払 消 費 税 等	1,597,600		1,597,600
未 払 法 人 税 等	4,000,000	1,825,000	2,175,000
流動負債合計	7,129,550	6,056,245	1,073,305
負 債 合 計	7,129,550	6,056,245	1,073,305
<b>III 正 味 財 産 の 部</b>			
一 般 正 味 財 産	73,158,174	81,720,787	▲8,562,613
正 味 財 産 合 計	73,158,174	81,720,787	▲8,562,613
負債及び正味財産合計	80,287,724	87,777,032	▲7,489,308

## 財務諸表に対する注記

法人名：一般社団法人協力隊を育てる会  
事業名：事業全体

### 1. 重要な会計方針

(1) 会計方針

「公益法人会計基準」（平成20年12月1日 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法によっている。

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法によっている。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
奨学貸付引当資産	6,433,749	0	500,000	5,933,749
合 計	26,433,749	0	500,000	25,933,749

### 3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	367,500	117,600	249,900
合 計	367,500	117,600	249,900

## 附属明細書

法人名：一般社団法人協力隊を育てる会  
事業名：事業全体

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産	奨学貸付引当資産	6,433,749	0	500,000	5,933,749

## 公益目的支出計画実施報告書

### 【25年度（2013/4/1から2014/3/31まで）の概要】

1. 公益目的財産額	81,720,787円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額（（1）＋（2）－（3））	11,315,689円
（1）前事業年度末日の公益目的収支差額	0円
（2）当該事業年度の公益目的支出の額	17,671,989円
（3）当該事業年度の実施事業収入の額	6,356,300円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	70,405,098円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由	

### 【公益目的支出計画の状況】


公益目的支出計画の	(1) 計画上の完了見込み	平成35年3月31日
完了予定事業年度の末日	(2) (1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額			81,720,787円	81,720,787円	73,449,233円
公益目的収支差額			8,271,554円	11,315,689円	8,271,554円
公益目的支出の額			16,881,554円	17,671,989円	16,881,554円
実施事業収入の額			8,610,000円	6,356,300円	8,610,000円
公益目的財産残額			73,449,233円	70,405,098円	65,177,679円



## 監査報告書

一般社団法人 協力隊を育てる会

監事 白小肇   
監事 中野義人 

私たち監事は、第1期事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、公益目的支出計画実施報告書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

### 1 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定め、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また随時説明を求め監査を実施しました。

### 2 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 計算書類とその附属明細書は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。
- (4) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施状況を正しく表示しています。

以上

一般社団法人協力隊を育てる会役員  
(平成26-27年度)

会長・代表理事	足立 房夫	再任	公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金顧問
副会長・常任理事	山本 信也	再任	一般財団法人日本青年館常務理事
副会長・常任理事	水野 秀一	再任	公益社団法人日本青年会議所事務局長
常任理事	松岡 和久	再任	一般財団法人日本国際協力センター名誉顧問
理 事	大貫 康雄	再任	公益社団法人自由報道協会代表理事
理 事	奥永 眞智子	再任	一般社団法人協力隊を育てる会事務局長
理 事	尾関 史生	再任	株式会社セキュリティ新聞社代表取締役
理 事	重 政子	再任	認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」 推進会議代表理事
理 事	島田 茂	再任	公益財団法人日本YMCA同盟総主事・代表理事
理 事	土井 章	再任	国際航業株式会社執行役員・海外事業部長
理 事	山根木 晴久	再任	日本労働組合総連合会組織局長
理 事	嶋田 実名子	新任	公益財団法人花王芸術・科学財団常務理事・事務局長
理 事	田中 潮	新任	日本青年団協議会事務局長
監 事	白山 肇	再任	大東文化大学環境創造学部教授 富山県青年海外協力隊を育てる会会長
監 事	中村 義人	再任	公認会計士 東洋大学経営学部非常勤講師



